

## 過去の緑十字賞受賞者一覧

中災防が表彰する緑十字賞の受賞者は次のとおり。(日本製紙連合会推薦分)

年度	会社名	氏名	年齢	推薦理由
H7年度 1995	新王子製紙 苫小牧工場	脇本 久	49歳	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 苫小牧工場は平成8年業界初の第5種無災害記録を達成。</li> <li>・ 安全衛生管理室31年勤務、無災害活動の推進役として貢献。</li> <li>・ 苫小牧労働基準協会事務局員・RSTトレーナーとして、地域活動に貢献。</li> </ul>
H8年度 1996	中越パルプ工業	澤田 啓三	58歳	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 同社は経懇50社の中で、ずば抜けた全社安全成績。(平成6年休業災害ゼロ、平成8年不休・休業災害ゼロ)</li> <li>・ 21年間工場安全衛生責任者を勤めた後、本社安全衛生責任者として10年間活躍。</li> <li>・ 紙パ経懇安全衛生幹事として、紙パ災害要因分析・データベース構築等に大きく貢献。</li> </ul>
H9年度 1997	日本製紙 石巻工場	石垣 巖	58歳	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ メンタルヘルス活動を同社で初めて導入し、自律訓練法を採用した。</li> <li>・ 安全管理者の重鎮として指導的役割。</li> <li>・ 職場安全指導員8年、安全衛生管理者23年。</li> <li>・ 石巻労働基準協会の衛生功労賞、安全功労賞を受賞。</li> </ul>
H11年度 1999	大昭和製紙 白老工場	鈴木 誠一	53歳	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 安全衛生業務を30年担当し、工場的大幅な災害減少と安全衛生工場に努め、後進の指導を行うと共に、安全衛生室長として業務を遂行している。</li> <li>・ 長い経験を活かし、苫小牧労働基準協会・日本ボイラー協会苫小牧支部・北海道危険物安全協会連合会等、数々の要職を歴任し、各種特別教育、危険物取扱者講習の講師等、地域の安全衛生向上に貢献。</li> </ul>
H13年度 2001	日本製紙 小松島工場	岸 嘉洋	57歳	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 20年以上に亘り労働安全衛生の推進業務に従事し、所規程並びに安全組織の整備、従業員教育、設備改善等、その充実・向上に努めてきた。</li> <li>・ 工場は平成4年8月から休業災害ゼロ日数を3237日継続し、平成12年7月に労働大臣優良賞を受賞。これは被推薦者の日々の安全指導と意識改革への働きかけに負うところが極めて大である。</li> </ul>
	三島製紙 原田工場	渡辺 真向	59歳	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 両手を失うという自らの被災体験を活かして安全業務に当たり安全管理体制を確立。また職場に安全最優先の風土を育て安全水中の向上に寄与。</li> <li>・ 安全活動の中心的な役割を果たすと共に、会員事業場に対する説明会講師を担当するなど、地域産業安全の水準向上に貢献している。</li> </ul>
H14年度 2002	大分王子紙業 (王子製紙)	丸橋 吉勝	60歳	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 労使安全委員会統括4年間、本社責任者16年間。</li> <li>・ 安全衛生幹事として6年余、幹事のまとめ役として活躍、ワインダー災害の分析・発表等大きく貢献。</li> </ul>
	三菱製紙 八戸工場	高橋 言武	58歳	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業所での安全衛生業務14年、安全衛生管理室長5年。</li> <li>・ モデル職場、レベルアップ職場の設定という斬新な取組みで、不安全箇所の撲滅を図ってきた。</li> </ul>
H16年度 2004	三菱製紙 八戸工場	河野 秀清	58歳	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 20年以上に亘り労働安全衛生の推進業務に従事してきた。</li> <li>・ 各階層別の安全衛生教育、及び全社安全衛生管理体制の中に事前予防の考えを取入れ、リスクアセスメントを導入推進してきた。</li> </ul>

年度	会社名	氏名	年齢	推薦理由
H18年度 2006	丸三製紙	猪俣 昇	58歳	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全衛生管理室長を10年歴任。</li> <li>2000年より構内安全協会を設立、2005年にはOSHMSを立ち上げた。</li> </ul>
H20年度 2008	王子製紙 富士工場	小野幸男	57歳	<ul style="list-style-type: none"> <li>14年間に亘り専任の安全衛生管理に携わり、従業員の安全衛生教育体制整備に努めた。</li> <li>2004年よりリスクアセスメントの普及促進やOSHMS活動の推進に努め、システム監査を実施している。</li> </ul>
H24年度 2012	日本製紙 富士工場	高岡正広	62歳	<ul style="list-style-type: none"> <li>15年以上に亘り職場内の安全管理、部下の安全に関する指導育成に努めた。</li> <li>2004年、安全衛生管理課長に就任以来、富士工場従業員、協力会及び工場入構業者の全てを対象に毎年安全教育を行い、熱意を持って災害防止の啓蒙活動を継続してきた。</li> <li>2005年、日本製紙及び日本製紙グループ各社で、初めてOSHMSを富士工場に導入した。</li> </ul>
H25年度 2013	日本製紙パピリア 吹田工場協力会 大阪化工(株)	室橋康雄	65歳	<ul style="list-style-type: none"> <li>15年にわたり工場内の安全管理者、防火管理者として社内及び地域の災害防止活動に積極的に参加して活性化に努めた。</li> <li>2007年より、大規模構内工事実施時の入構業者に対して、協力会の設置を定着させ、安全パトロールの強化と業者間の安全関係の連絡を密にさせた。</li> <li>2010年より、日本製紙グループの労働安全衛生マネジメントシステム導入と普及促進に携わり、安全で活力ある職場作りに貢献した。</li> </ul>
H26年度 2014	日本製紙 岩国工場	日笠 理	60歳	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全保安管理室長代理、安全保安管理課長として、災害防止協議会所属協力会社のリスクアセスメント導入など、安全指導を継続して実施し、協力会社の安全レベル向上による災害防止に貢献。</li> <li>工場専任の安全管理者として、工場入構者教育資料として法令に準ずる構内ルールを網羅した安全手帳を作成し、その教育を実施して作業の安全化に貢献。また、安全教育講師の指導育成を実施。</li> <li>2009年10月、回転体等の安全体感ができる岩国工場教育センター「凌雲館」を立ち上げ、述べ約2500名に安全体感教育を実施。また、同体感教育の講師を教育して育成した。</li> </ul>
令和 元年度 2019	大王製紙	高橋英基	62歳	<ul style="list-style-type: none"> <li>27年間に、現場主導の安全活動ツールを考えて実行することで定着させ、それを三島工場全体へ広めた。</li> <li>作業基準書を整備し、若年層主導で定期的に見直しする仕組みを作ることで、若年者の安全意識向上と作業の習得度アップを図った。図や写真を多く取り入れて安全活動の見える化を図り、安全活動に興味を持たせる取組みを行った。</li> <li>過去の災害をカレンダーに落とし込み、災害発生日には過去の対策が現状と合致しているか、対策が現在も守られているかを確認し、再度OJT教育の実施、安全作業基準書の見直しも併せて実施する「リメンバーデー」の仕組みを作った。</li> </ul>

年度	会社名	氏名	年齢	推薦理由
令和 2年度 2020	特種東海製紙 協力会 静岡ロジスティック(株)	鳥田友之助	63歳	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特種東海製紙グループの主要3工場(三島工場・岐阜工場・鳥田工場)の他、グループ会社も含め合計15年もの間安全活動に携わり、安全管理体制の構築や従業員の安全意識高揚、後輩安全担当者の育成等、特種東海製紙グループの安全活動に多大なる貢献を果たした。</li> <li>・特筆すべき点は、特種製紙(株)三島工場にいち早くリスクアセスメントの考え方を取り入れ現在の取組みの礎を築いた他、特種東海製紙(株)岐阜工場では毎日の職場巡視を徹底的に行うことで従業員の安全意識高揚を図り、在任期間中2年間の完全無災害を達成している。</li> </ul>
令和 4年度 2022	日本製紙 八代工場	鶴田 政 智	58歳	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工場・協力会の安全衛生管理に関する業務全般に亘り普及を図った。特に協力会との関係では、近隣他企業の工場見学を実施し、見分を広げる場を作るなど安全活動への意識を高める対応を行った。また工場と協力会との連携を深めるため「安全衛生推進協議会」組織を立ち上げ、工場が関係請負人を含めた総合的な安全管理体制を構築し、関係請負会社の安全管理の充実を図るなど災害防止の取組みを進めた。</li> <li>・工場専任の安全管理者として、職場巡回、手上げ応答、ハイタッチの取組みなど工場内のコミュニケーションの醸成に努め、従業員の安全意識を高める活動に尽力した。</li> </ul>
	日本製紙 江津工場	佐々木孝行	63歳	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成18年改正労働安全衛生法への対応</li> <li>・工場管理者として「指定工事管理」を立案・導入した。本工事管理は、4者(現場課、施工課、安全室、元請)で法に則る管理を行うものである。導入以来、今日まで完全無災害完工を継続している。(第58回全国紙パルプ安全衛生大会で事例発表)</li> <li>・リスクアセスメントについて、構内協力会を含め取組み、リスクアセスメントに基づく作業を定着させた。</li> <li>・厚生労働省「安全プロジェクト」に参加登録すると共に、「安全見える化」に積極的に取組み、「見える」安全活動コンクールで「優良事例」に選考された。</li> </ul>